96　　I

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成14年3月18日　14時40分～16時50分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味2時間10分である。
2. 試験問題の持帰りを認めない。
3. 解答方法は次のとおりである。

(1) 各問題にはaからeまでの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを一つ選び、次の例にならって答案用紙に記入すること。

(例) 101　県庁所在地はどれか。

a　栃木市
b　川崎市
c　神戸市
d　倉敷市
e　別府市

正解は「c」であるから答案用紙の

101 ⓐ ⓑ ⓒ ⓓ ⓔ のうち ⓒ をマークして

101 ⓐ ⓑ ● ⓓ ⓔ とすればよい。

(2) 答案の作成にはHBの鉛筆を使用し、濃くマークすること。

良い解答の例…… ●（濃くマークすること。）

悪い解答の例…… ⊙ ⊖（解答したことにならない。）

(3) 答えを修正した場合は、必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色が残ったり「⊗」のような消し方などをした場合は、修正したことにならないので注意すること。

(4) 1問に二つ以上解答した場合は誤りとする。

(5) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

1　17歳の男子。オートバイで走行中乗用車に接触され受傷し救急車で来院した。右大腿骨骨折を認めるが、意識は清明である。事故の翌日、警察からアルコールと覚醒剤との検査用に来院時の患者の血液と尿との提出を求められた。

最も適切な対応はどれか。

a　求めに応じて提出する。

b　患者の承諾を得て提出する。

c　親の承諾を得て提出する。

d　病院長の承諾を得て提出する。

e　裁判所に令状を要求する。

2　32歳の男性。けいれん発作のため来院した。23歳のとき、幻覚、妄想および興奮のために6か月の入院治療を受け、以後は抗精神病薬を服用し続けている。2か月前から大量の水分を摂取していた。診察時けいれんはない。血清生化学所見：Na 125 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 90 mEq/l。血清浸透圧 250 mOsm/l（基準 275～288）。尿浸透圧 100 mOsm/l（基準 50～1,300）。

最も適切な処置はどれか。

a　水分制限

b　ブドウ糖輸液

c　高張食塩水輸液

d　ジアゼパム静注

e　フェニトイン静注

3　52歳の男性。住民100人の集落の代表。集落の共同井戸から給水している飲料水に昨年末から異臭があると保健所に相談のため来所した。昨年の夏に集落の近くで有機溶剤の不法投棄がみつかった。

対応として**誤っている**のはどれか。

a　不法投棄された溶剤の種類と量とを調べる。

b　飲料水の分析を行う。

c　煮沸して飲用するよう指導する。

d　住民の健康診断を行う。

e　近隣の集落における飲料水の汚染状況を調べる。

4　42歳の男性。職場の定期健康診断を受けに来た。身長165 cm、体重67 kg。血圧148/82 mmHg。尿所見：蛋白(−)、糖(−)。血清生化学所見：空腹時血糖108 mg/dl、総コレステロール260 mg/dl、トリグリセライド140 mg/dl(基準50〜130)、AST〈GOT〉40単位(基準40以下)、ALT〈GPT〉30単位(基準35以下)、γ-GTP 46単位(基準8〜50)。胸部エックス線写真と心電図とには異常を認めない。この男性に、運動と食事とによる糖尿病発症予防の介入研究に同意を得て参加してもらうことになった。

研究遂行上必要性が低いのはどれか。

a　家族歴の調査

b　ブドウ糖負荷試験〈OGTT〉

c　筋力検査

d　身体活動度調査

e　食事摂取量調査

5　30歳の女性。0経妊。妊娠を希望し、相談のため来院した。飲酒の習慣はないが、1日に15〜20本の喫煙を10年間続けている。家族歴と既往歴とに特記すべきことはない。

この女性の妊娠で発生のリスクが高いのはどれか。

(1)　流　産

(2)　早　産

(3)　巨大児

(4)　羊水過多症

(5)　常位胎盤早期剥離

a　(1)、(2)、(3)　　b　(1)、(2)、(5)　　c　(1)、(4)、(5)

d　(2)、(3)、(4)　　e　(3)、(4)、(5)

6　5歳の男児。走るのが遅く、転びやすいことを主訴に来院した。周産期に異常はなく、歩行開始は1歳7か月であった。両側腓腹筋の仮性肥大がみられる。血清生化学所見：LDH 1,500単位(基準176〜353)、CK 2,500単位(基準10〜40)、乳酸10 mg/dl(基準5〜20)。生検筋の免疫組織化学染色でジストロフィンが染色されなかった。

次子が患児と同一疾患である確率はどれか。

a　1/8

b　1/4

c　1/3

d　1/2

e　1/1

7　70歳の男性。物忘れがひどくなり、家族に付き添われて来院した。60歳で定年退職し、再就職した。67歳ころから、物の置き場所や人との約束を忘れるようになり、68歳で仕事を辞めた。しかし、仕事を辞めていることを忘れて会社へ行こうとしたり、家の近くへ散歩に出ても道に迷うようになった。また夜半に起き出して食べ物を探すことが時々ある。

家族に対する助言として適切なのはどれか。

(1)　外出時は同伴者をつける。
(2)　失敗しても叱らない。
(3)　置き忘れた物を一緒に捜してあげる。
(4)　本人の気の向いた時に食事させる。
(5)　会社を辞めていることをきつく言って聞かせる。

a　(1)、(2)、(3)　　b　(1)、(2)、(5)　　c　(1)、(4)、(5)
d　(2)、(3)、(4)　　e　(3)、(4)、(5)

8　32歳の男性。咳嗽と微熱とが3か月間持続するため来院した。31歳の妻と9歳の長男とが同居している。胸部エックス線写真で右下肺野に空洞を伴う結節陰影を認めた。喀痰の塗抹検査はGaffky V号で、核酸増幅法(PCR法)でヒト型結核菌が同定された。

適切な対応はどれか。

a　BCGを接種する。
b　治療の開始は薬剤感受性検査の結果を待つ。
c　保健所への届け出は培養検査で結核菌を確認してから行う。
d　外来治療を行う。
e　妻と長男とにツベルクリン反応検査を行う。

9　55歳の男性。商社員。アフリカ中部の森林地帯に出張し、3か月滞在するので健康管理の相談のため来院した。これまで海外出張に際し予防接種を受けたことはない。A型急性肝炎に罹患したことがある。

適切なのはどれか。

(1)　生水を飲まないように指導する。
(2)　蚊に刺されないように注意させる。
(3)　ガンマグロブリンを投与する。
(4)　種痘をする。
(5)　A型肝炎ワクチンを接種する。

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

10　生後6週の乳児。左眼の角膜混濁と流涙とを主訴に来院した。左眼の角膜径は縦径、横径ともに13.0 mmである。右眼に異常はない。

考えられるのはどれか。

a　強膜肥厚
b　前(眼)房混濁
c　水晶体混濁
d　硝子体混濁
e　眼圧上昇

11　26歳の男性。4か月前から頻回の軟便があり、1か月前から1日6、7行の粘血便が出現し来院した。上腹部から左側腹部にかけて圧痛を認める。血液所見：赤血球389万、Hb 11.5 g/dl、白血球9,600、血小板39万。血清生化学所見：総蛋白7.0 g/dl、アルブミン3.5 g/dl、AST〈GOT〉25単位(基準40以下)、ALT〈GPT〉22単位(基準35以下)、LDH 360単位(基準176～353)。CRP 5.6 mg/dl(基準0.3以下)。注腸造影写真(別冊No. 1A)と下行結腸の内視鏡写真(別冊No. 1B)とを別に示す。

この疾患で吸収が特に障害されるのはどれか。

(1)　鉄

(2)　胆汁酸

(3)　ビタミンA

(4)　ナトリウム

(5)　水　分

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

別　冊
No. 1　写真A、B

12　25歳の初妊婦。妊娠26週。最近、全身倦怠感があり来院した。時々息切れもある。また、咳やくしゃみで尿が漏れたり、食後に胸やけと悪心とがある。1か月前の妊婦健康診査までは異常を指摘されなかった。脈拍96/分、整。血圧88/66 mmHg。血液所見：Hb 10.2 g/dl、白血球11,000、血小板16万。血清生化学所見：尿素窒素4 mg/dl、クレアチニン0.3 mg/dl、総コレステロール280 mg/dl、AST〈GOT〉30単位(基準40以下)、ALT〈GPT〉25単位(基準35以下)。

この妊婦への対応で適切なのはどれか。

a　経過観察

b　上部消化管造影

c　尿路造影

d　胸部単純CT

e　Holter心電図検査

13　45歳の男性。町の健康診査を受診した。身長168 cm、体重57 kg。血圧160/94 mmHg。尿所見：蛋白(−)、糖(−)、潜血(−)。血清生化学所見：空腹時血糖75 mg/dl、HbA_{1c} 4.8%(基準4.3〜5.8)、総コレステロール184 mg/dl。心電図と眼底とに異常を認めない。喫煙は20本/日を25年間継続し、飲酒は日本酒1合/日を週3、4回である。エネルギー摂取量は1,900 kcal/日、脂質摂取量は50 g/日、食塩摂取量は16 g/日である。

この男性に適した生活習慣の改善方法はどれか。

(1)　体重減量
(2)　低脂肪食
(3)　減　塩
(4)　禁　煙
(5)　禁　酒

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

14　日齢1の新生児。44歳の初産の母親から在胎38週、体重2,300 gで出生した。瞼裂斜上、両眼間開離、耳介低位、鼻根部平坦および手掌に猿線を認める。

この疾患で正しいのはどれか。

(1)　染色体欠失が原因である。
(2)　発生は父親の年齢に影響される。
(3)　知能障害を伴う。
(4)　心奇形の合併がある。
(5)　高身長の傾向がある。

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

15　35歳の男性。石油ストーブに給油中引火し火災が発生し、顔面、頸部および両手に熱傷を負った。救急隊に救出され、30分後に救急車で来院した。意識は清明で会話も可能であるが、軽度の嗄声を認める。脈拍96/分、整。血圧126/88 mmHg。毛髪は焦げ、鼻毛は焼失して鼻腔と口腔とにわずかにすすを認める。顔面と手背とに紅斑と水疱形成とを認める。

受傷早期に最も注意すべき病態はどれか。

a　貧　血
b　腎障害
c　肝障害
d　喉頭浮腫
e　消化管出血

16　64歳の男性。発熱、咳および痰が4日前に出現し、市販の感冒薬を服用したが改善しないため来院した。体温39℃。呼吸数30/分。脈拍108/分、整。血圧100/86 mmHg。胸部では右背部でcoarse crackles(湿性ラ音)を聴取する。胸部エックス線写真で右中肺野に浸潤影を認める。喀痰のGram染色標本(別冊No. 2)を別に示す。

起因菌はどれか。

a　真　菌
b　グラム陽性球菌
c　グラム陰性球菌
d　グラム陽性桿菌
e　グラム陰性桿菌

別　冊
No. 2　写　真

17　20歳の男性。生来健康で、職場の定期健康診断で異常を指摘されたことはない。ビルの地下室にある浄化槽の補修のため、エンジンポンプで槽内に残った水を排水しながら、同僚とともに槽壁の亀裂を埋める作業をしていた。しばらくして、頭痛と悪心とを訴えて倒れたと同僚が通報してきた。その同僚も頭痛を訴え嘔吐している。

現場に急行した医師が周囲の作業員に対して行う最初の指示として**適切でない**のはどれか。

a　地下室内を換気させる。
b　エンジンポンプを停止させる。
c　救出のために直ちに槽内に入らせる。
d　現場を照明させる。
e　呼吸用保護具を準備させる。

18　60歳の女性。前胸部痛を主訴に救急車で来院した。直ちに心電図検査を施行したところ典型的な急性心筋梗塞の所見が認められた。入院を指示した直後に心停止となり、来院1時間後に死亡した。診療録によれば患者は死亡の前日に前胸部痛で同僚のA医師の診察を受け、狭心症の疑いでHolter心電図と運動負荷心電図とを予約して帰宅していた。

適切な対応はどれか。

a　死亡診断書を交付する。
b　死体検案書を交付する。
c　異状死体として警察に届け出る。
d　A医師に対応を一任する。
e　行政解剖を依頼する。

19　20歳の初妊婦。妊娠20週。昨夜からの急な発熱と下腹部痛とを訴えて来院した。体温38.8℃。脈拍112/分、整。呼吸音は清。背部叩打痛は認めない。上腹部は軟。5分おきの子宮収縮を触知し、著明な圧痛を認める。胎児心拍数184/分。子宮口は閉鎖し、子宮腟部の展退は認めない。腟分泌物は白色で量は正常である。尿は淡黄色透明で、沈渣は正常で細菌を認めない。血液所見：赤血球350万、Hb 11.0 g/dl、白血球18,000。CRP 10.6 mg/dl(基準0.3以下)。

診断のために最も有用なのはどれか。

a　胎児心拍数陣痛図計測
b　腹部エックス線単純撮影
c　腹部超音波検査
d　腟分泌物顕微鏡検査
e　羊水穿刺

20　17歳の女子。発熱と関節痛とを主訴に来院した。1か月前から顔面に皮疹が出現してきた。血液所見：赤血球396万、白血球2,900、血小板9万。血清生化学所見：総蛋白6.1 g/dl、アルブミン3.0 g/dl、IgA 360 mg/dl(基準110～410)、IgG 2,310 mg/dl(基準960～1,960)、IgM 160 mg/dl(基準65～350)。抗核抗体320倍(基準20以下)。顔面の写真(**別冊** No. 3)を別に示す。

この疾患でみられるのはどれか。

(1)　脱　毛
(2)　光線過敏症
(3)　口腔粘膜潰瘍
(4)　舌小帯の短縮
(5)　内臓悪性腫瘍の合併

a　(1)、(2)、(3)　　b　(1)、(2)、(5)　　c　(1)、(4)、(5)
d　(2)、(3)、(4)　　e　(3)、(4)、(5)

別　冊
No. 3　写　真

21　67歳の男性。悪臭鼻漏と複視とを主訴に来院した。4か月前から悪臭鼻漏と鼻出血とを繰り返すようになり、歯痛も自覚していた。徐々に右側の眼球突出と複視とが出現し、顔貌も変形してきた。副鼻腔冠状断単純CT(**別冊** No. 4)を別に示す。

考えられるのはどれか。

a　慢性副鼻腔炎

b　歯性上顎洞炎

c　副鼻腔嚢胞

d　上顎癌

e　上咽頭癌

別　冊
No. 4　写　　真

22　65歳の女性。外陰部にかたまりを触れたので、びっくりして来院した。外陰部写真(**別冊** No. 5)を別に示す。

この疾患でみられるのはどれか。

(1)　頻　尿

(2)　性器出血

(3)　帯下増加

(4)　腹部膨満

(5)　下腿浮腫

a　(1)、(2)、(3)　　b　(1)、(2)、(5)　　c　(1)、(4)、(5)

d　(2)、(3)、(4)　　e　(3)、(4)、(5)

別　冊
No. 5　写　　真

23　56歳の男性。半年前から続く頭痛を主訴に来院した。身長170 cm、体重80 kg。発汗過多を認め、口唇、鼻および舌は肥大し、眉弓部や下顎が突出している。2年前に購入した革靴に足が入らなくなった。

この疾患で**みられない**のはどれか。

a　高血圧

b　手根管症候群

c　勃起不全

d　体脂肪増加

e　耐糖能異常

24　35歳の男性。既婚。不妊のため来院した。身長176 cm、体重65 kg、指極長182 cm。類宦官症体型を示し、精巣は硬く、長径は2 cm以下である。染色体分析で47, XXYと判定された。

この疾患でみられるのはどれか。

(1)　知能障害

(2)　嗅覚障害

(3)　感音難聴

(4)　無精子症

(5)　耐糖能異常

a　(1)、(2)、(3)　　b　(1)、(2)、(5)　　c　(1)、(4)、(5)

d　(2)、(3)、(4)　　e　(3)、(4)、(5)

25　28歳の女性。3か月前からの無月経を主訴に来院した。基礎体温の記録からは5週間の高温相が持続している。昨日から悪心が強くなり、これまで数回嘔吐した。内診所見では子宮は鶏卵大、軟、左付属器に鶏卵大の腫瘤を触知する。経腟超音波検査で子宮内に胎嚢を認め、数mm長の胎芽に心拍動(心拍数80/分)を認める。左卵巣に直径4cmの嚢胞性腫瘤を認める。

適切な対応はどれか。

a　経過観察

b　腹部エックス線単純撮影

c　嚢胞穿刺

d　腹腔鏡検査

e　嚢胞摘出術

26　25歳の初妊婦。妊娠36週の妊婦健康診査で血圧の上昇と下腿浮腫の出現とを指摘され、その精査のため入院した。既往歴に特記することはなく、これまでの定期的な妊婦健康診査で異常は指摘されなかった。胎児の成長も週数相当であるといわれていた。脈拍70/分、整。血圧146/94 mmHg。内診所見では子宮口は閉鎖しており展退もしていない。尿所見：蛋白(−)、糖(−)。血液所見：Hb 11.0 g/dl、Ht 33%、白血球7,500、血小板20万。血清生化学所見：尿素窒素4 mg/dl、クレアチニン0.4 mg/dl、尿酸2.5 mg/dl。

まず行う検査はどれか。

(1)　ノンストレステスト〈NST〉

(2)　超音波検査による羊水量計測

(3)　羊水鏡検査

(4)　マイクロバブルテスト

(5)　胎児血液ガス検査

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

27　7か月の乳児。健康診査で来院した。在胎38週、自然分娩で出生した。出生体重3,000 g、身長49.0 cm。母乳栄養。5か月時から離乳を開始した。離乳食は、舌でつぶせる固さにして1日2回与えている。寝返りするが、這い這いはしない。欲しいものに手を出してつかむ。名前を呼ぶと振り向き、お坐りができる。顔の上に布をかけると自由にとる。三種混合ワクチンの第1期とポリオワクチンの1回目とは接種済みである。来院時体重8,900 g。大泉門は2×2 cmである。心雑音はない。肝は弾性軟で右肋骨弓下に3 cm触知する。Moro反射はない。

この児で正しいのはどれか。

(1)　這い這いしないのは発達の遅れを示す。

(2)　Moro反射がないのは脳障害を示す。

(3)　肝の触診所見は生理的範囲内である。

(4)　BCG接種を指導する。

(5)　断乳するように指導する。

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

28　3歳の男児。夜半から呼吸困難が出現したため、母親に抱かれて来院した。生来健康であったが、半年前から風邪をひくとゼーゼーしやすくなった。1年前から、ネコを飼うようになった。父親はアレルギー性鼻炎に罹患している。

この患児の胸部診察所見で**みられない**のはどれか。

a　呼気の延長

b　吸気の延長

c　呼吸音の減弱

d　笛様音〈wheezes〉

e　いびき様音〈rhonchi〉

29　65歳の女性。2か月前から全身疲労感、咳嗽、息切れ及び顔面のむくみがあり来院した。20歳時に肺結核で治療を受けたが、その後は健康であった。身長154 cm、体重50 kg。呼吸数16/分。脈拍72/分、整。血圧146/84 mmHg。心雑音はなく、両側背部に軽度のfine crackles〈捻髪音〉を聴取する。腹部に異常所見はない。入院時の胸部エックス線写真(**別冊** No. 6A)、胸部造影CT(**別冊** No. 6B)及び経気管支肺生検H-E染色標本(**別冊** No. 6C)を別に示す。

この患者で異常値を示す可能性の最も高いのはどれか。

a　AFP

b　CA 19-9

c　SCC

d　NSE

e　PIVKA-Ⅱ

別　冊
No. 6　写真A、B、C

30　56歳の女性。心窩部痛と黒色便とを主訴に来院した。45歳ころから胸やけと心窩部痛とを繰り返し、胃酸過多と診断されて抗潰瘍薬を内服していた。しかし、消化器症状は軽快せず、下血が止らないため2か月前胃亜全摘術を受けた。昨夜再び黒色便が出現して入院した。身長156 cm、体重45 kg。脈拍96/分、整。血圧102/70 mmHg。眼瞼結膜に貧血を認め、上腹部に圧痛を認める。緊急内視鏡検査で十二指腸下行脚に新鮮な出血を認める。血清ガストリン値2,200 pg/ml(基準20～160)。

診断確定に有用な検査はどれか。

a　アルギニン負荷試験

b　インスリン負荷試験

c　グルカゴン負荷試験

d　グルコース負荷試験

e　セクレチン負荷試験

31　18歳の女子。感冒症状がありセフェム系抗菌薬を内服して間もなく口内異常感と喉頭部不快感とを自覚し、口唇と顔面とにじんま疹様の発疹が出現したため来院した。意識は清明。身長158 cm、体重42 kg。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧102/64 mmHg。心雑音はない。胸部にラ音を聴取しない。腹部は平坦、軟。尿蛋白(－)。血液所見：赤血球420万、白血球5,600。血清生化学所見：総蛋白7.6 g/dl、尿素窒素16 mg/dl、総コレステロール180 mg/dl。

病因の同定に有用な検査はどれか。

(1)　好酸球数算定

(2)　血清総IgE測定

(3)　リンパ球刺激試験

(4)　皮内反応

(5)　皮膚感作試験

a　(1)、(2)　b　(1)、(5)　c　(2)、(3)　d　(3)、(4)　e　(4)、(5)

32　56歳の男性。右の難聴を主訴に来院した。昨夜飲酒後、自転車で帰宅途中に転倒し右側頭部を強打した。一瞬の意識消失があったが、右耳の聴力低下以外の自覚症状がないため、そのまま帰宅した。翌日になっても右の難聴が治らない。めまいはなく、頭部単純CTでも異常は認められない。右耳の聴力像(**別冊** No. 7A)と左右のインピーダンスオージオグラム(**別冊** No. 7B)とを別に示す。

考えられるのはどれか。

a　鼓膜の陥凹

b　耳小骨の離断

c　耳石器の障害

d　蝸牛の障害

e　聴神経の障害

別　冊
No. 7　図A、B

33　21 歳の女性。少量の性器出血を主訴に来院した。元来月経周期は不順で、最終月経は約半年前であった。3 週前にも軽い性器出血があり、診察を受けた。その時は、尿による妊娠反応は陽性で、経腟超音波検査では子宮内に約 1 cm の胎嚢を認めたが、胎芽は確認できず、1 か月後の再診を指示された。その後自然に性器出血は消失したが、3 週目の本日出血を見た。腹痛や帯下の増加はない。今回来院時の経腟超音波像(**別冊** No. 8)を別に示す。

正しいのはどれか。

a　治療を行うには母体保護法指定医の資格が必要である。

b　尿中 hCG の高値が予想される。

c　Douglas 窩穿刺の適応である。

d　子宮収縮抑制薬投与の適応である。

e　妊娠の継続は望めない。

別　冊
No. 8　写　　真

34　31 歳の初妊婦。妊娠 10 週に経腟超音波検査で 1 絨毛膜性双胎妊娠と診断された。妊娠 30 週の腹部超音波検査で、両児の羊水量に明らかな差が認められる。

羊水の多い方の児によくみられる所見はどれか。

(1)　全身皮下浮腫

(2)　心拡大

(3)　胃泡拡張

(4)　腎盂拡大

(5)　膀胱拡張

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

35　52 歳の男性。会社の健康診断で血液検査の異常を指摘され来院した。車で通勤し、デスクワークに従事している。身長 168 cm、体重 74 kg。血圧 126/82 mmHg。尿所見：蛋白(−)、糖(−)。血清生化学所見：空腹時血糖 118 mg/d*l*、総コレステロール 262 mg/d*l*、トリグリセライド 220 mg/d*l* (基準 50〜130)。心電図は正常である。

この患者に行うべき生活指導はどれか。

(1)　エネルギー摂取量の制限

(2)　脂質摂取量の制限

(3)　蛋白質摂取量の制限

(4)　食物繊維摂取量の制限

(5)　運動の励行

a　(1)、(2)、(3)　　b　(1)、(2)、(5)　　c　(1)、(4)、(5)

d　(2)、(3)、(4)　　e　(3)、(4)、(5)

36　日齢 10 の新生児。発熱、嘔吐および哺乳力低下を主訴に来院した。昨夕、発熱がありグズグズ泣くことが多く哺乳力が低下した。抱き上げても泣き止まなかった。夜半から嘔吐が 4、5 回出現し元気がなくなってきた。体温 39.1℃。大泉門 0.5×0.5 cm であり緊張が強い。四肢冷感があり、運動に乏しい。Moro 反射は弱いが、両側指趾の把握反射は陽性である。脳脊髄液検査：細胞数 1,380/mm^3(基準 30 以下)で 95% 以上は多核球、糖 10 mg/d*l* (基準 20〜60)。

この患児の薬物治療で**適切でない**のはどれか。

a　アンピシリン

b　クロラムフェニコール

c　ゲンタマイシン

d　セファロスポリン

e　ペニシリン G

37　24 歳の初妊婦。妊娠 26 週。間欠的な軽い下腹部痛と少量の性器出血とを訴えて来院した。既往歴には特記すべきことはなく、これまでの妊婦健康診査でも異常を指摘されたことはなかった。本日早朝から引っ越しを行っていて、昼ころから腹部緊満感を認めていた。夕刻来院時の診察では子宮口 1 cm 開大、経腟超音波法による子宮頸管長は 25 mm、腟分泌物の pH は 5.5 であった。

この患者にまず投与すべき薬物はどれか。

a　インドメタシン

b　塩酸リトドリン

c　カルシウム拮抗薬

d　サクシニルコリン

e　止血薬

38　58 歳の男性。自動車運転免許の更新時に視力障害を指摘され来院した。視力は右 0.1(0.4 ×−3.50D)、左 0.1(0.2 ×−4.00D)。眼圧は右 13 mmHg、左 13 mmHg。瞳孔反射、眼球運動および眼底には異常はみられない。仕事のため運転をしなければならない。左前眼部写真(**別冊**No. 9)を別に示す。右眼も同様の所見である。

適切な治療はどれか。

a　経過観察

b　抗菌薬投与

c　副腎皮質ステロイド薬投与

d　非ステロイド性抗炎症薬投与

e　手　術

別　冊
No. 9　写　真

39　56 歳の女性。左副腎腫瘍に対し、全身麻酔下に鏡視下摘出術が施行された。身長 158 cm、体重 48 kg。手術終了前から最高気道内圧が 15 cmH_2O から 25 cmH_2O に上昇したが、麻酔からの覚醒は十分で気管チューブを抜管した。回復室へ到着したとき、強い呼吸困難を訴えた。呼吸数 26/分。脈拍 92/分、整。血圧 74/54 mmHg。パルスオキシメータ表示 85 %。胸部聴診では右肺の呼吸音は清で、左肺の呼吸音は聴取されない。打診上左胸部に鼓音を認める。

直ちに行うべき検査はどれか。

a　心電図

b　心エコー

c　胸部エックス線撮影

d　胸部 MRI

e　気管支ファイバースコピィ

40　5 歳の男児。難治性の白血病に罹患し、骨髄移植の適応がある。患児の兄をドナーとして骨髄移植を行う予定である。

骨髄移植のために**必要でない**のはどれか。

a　GVHD の予防

b　ドナーとの血液型の一致

c　残存白血病細胞の根絶

d　日和見感染の予防

e　無菌室での患者管理

41　30歳の女性。1か月前に無痛性の右頸部腫瘤に気付き、次第に増大するため来院した。3か月前から全身倦怠感と寝汗とがあり、体重が2kg減少した。身長148 cm、体重45 kg。右側頸部に約3 cm大の腫瘤を触知する。心肺に異常所見はなく、腹部で肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球354万、Hb 10.3 g/dl、白血球4,200(好中球66 %、好酸球8 %、単球6 %、リンパ球20%)、血小板16万。血清生化学所見は正常。ガリウムシンチグラムで腹部と骨盤部とに異常集積を認めない。胸部エックス線写真(別冊No. 10A)、頸部と胸部との造影CT(別冊No. 10B)及び頸部リンパ節生検組織H-E染色標本(別冊No. 10C)を別に示す。

この患者の治療法で適切なのはどれか。

(1)　外科的切除

(2)　放射線治療

(3)　抗癌化学療法

(4)　免疫療法

(5)　骨髄移植

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

別　冊

No. 10　写真A、B、C

42　65歳の男性。全身倦怠感を主訴に来院した。腹部超音波検査で肝に腫瘤を認めたので精査のため入院した。C型肝炎の既往がある。手掌紅斑と前胸部にクモ状血管腫とを認める。黄疸は認めない。肝は触知しない。血液所見：赤血球410万、Hb 12.0 g/dl、Ht 45 %、白血球5,200、血小板9万。血清生化学所見：総蛋白6.5 g/dl、アルブミン3.0 g/dl、総ビリルビン1.2 mg/dl、AST〈GOT〉72単位(基準40以下)、ALT(GPT)60単位(基準35以下)。AFP 115 ng/ml(基準20以下)。ICG試験(15分値)35 %(基準10以下)。総肝動脈造影(別冊No. 11A、B)と経動脈性門脈造影(別冊No. 11C)とを別に示す。

適切な治療法はどれか。

(1)　エタノール注入療法

(2)　マイクロ波凝固療法

(3)　肝動脈塞栓術

(4)　肝動脈内抗癌薬注入療法

(5)　肝切除術

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

別　冊

No. 11　写真A、B、C

43　11歳の男児。学校で運動中に左側腹部を打撲し、尿が赤いことに気付き来院した。意識は清明。体温35.7℃。脈拍100/分、整。血圧96/70 mmHg。心雑音はない。胸部聴診ではラ音を認めない。皮下気腫はない。腹部は平坦。左側腹部に圧痛を伴う10 cmの腫瘤を触知する。腸雑音は弱い。尿所見：肉眼的血尿、蛋白2＋、糖(－)、沈渣に赤血球無数/1視野、白血球2～3/1視野。血液所見：赤血球250万、Hb 7.0 g/dl、Ht 24%、白血球9,500、血小板18万。腹部造影CT(別冊No. 12)を別に示す。まず安静を指示し、輸血を行った。

次に行うべき処置はどれか。

(1)　腹膜透析カテーテル挿入
(2)　経皮的腎瘻カテーテル挿入
(3)　尿道留置カテーテル挿入
(4)　左腎動脈枝塞栓術
(5)　内シャント造設術

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

別　冊
No. 12　写　　真

44　68歳の男性。前日から言語障害と歩行障害とが生じ入院した。意識は清明。右不全片麻痺を認め、右上下肢はわずかに屈伸できる。入院後の頭部単純CTで左大脳半球に低吸収域がある。第5病日となり合併症もない。

リハビリテーション開始時に適切なのはどれか。

(1)　起座位訓練
(2)　麻痺肢の他動運動
(3)　摂食・嚥下の評価
(4)　短下肢装具の作製
(5)　言語訓練

a　(1)、(2)、(3)　　b　(1)、(2)、(5)　　c　(1)、(4)、(5)
d　(2)、(3)、(4)　　e　(3)、(4)、(5)

45　26歳の男性。スキーで転倒し、診療所に搬送された。意識は清明で、会話は可能である。強い頸部痛と両上肢のしびれ感とを訴え、軽度の四肢運動麻痺を認める。

まず行うべき処置はどれか。

a　頸部冷却
b　気道確保
c　鎮痛薬投与
d　頸部安静固定
e　頸椎徒手整復

46　42歳の男性。生来健康であった。屋根から転落し頭部、胸部および骨盤の多発外傷を受け、救急車で搬入された。身長170 cm、体重68 kg。緊急手術が行われ、約7,000 mlの輸血を受けた。術後6日目の身体所見として、意識は傾眠。体温37.8℃。脈拍110/分、整。血圧116/76 mmHg。人工呼吸中であり両側胸部にfine crackles〈捻髪音〉を聴取する。心雑音はない。動脈血ガス分析($FiO_2$0.6)：PaO_2 82 Torr、$PaCO_2$ 43 Torr。このときの胸部エックス線写真(別冊No. 13)を別に示す。

この患者の病態について正しいのはどれか。

(1)　気道抵抗が減少している。
(2)　肺の生理的死腔が減少している。
(3)　肺コンプライアンスが減少している。
(4)　透過亢進型肺水腫を伴う。
(5)　肺塞栓症を伴う。

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

別　冊
No. 13　写　　真

47　25歳の男性。暴漢にナイフで大腿部を刺され救急車で来院した。大量の動脈性出血を認める。

直ちに行うべき処置はどれか。

(1)　仰臥位として頭を低くする。

(2)　静脈路を確保する。

(3)　出血部の直接圧迫止血を行う。

(4)　止血薬を投与する。

(5)　鉗子による止血を行う。

a　(1)、(2)、(3)　　b　(1)、(2)、(5)　　c　(1)、(4)、(5)

d　(2)、(3)、(4)　　e　(3)、(4)、(5)

48　36歳の女性。調理中、油に引火し上肢と前胸部とに熱傷を受け、救急車で来院した。

この病態の重症度の判定に**有用でない**のはどれか。

a　年　齢

b　性　別

c　部　位

d　範　囲

e　深　さ

49　32歳の女性。体外受精・胚移植4日後に腹部膨満感を訴えて来院した。左右卵巣の経腟超音波写真(**別冊**No. 14)を別に示す。

予想される検査所見はどれか。

(1)　ヘマトクリット値の上昇

(2)　白血球数の増加

(3)　血清カリウム値の低下

(4)　血清アルブミン値の上昇

(5)　プロトロンビン時間の延長

a　(1)、(2)　　b　(1)、(5)　　c　(2)、(3)　　d　(3)、(4)　　e　(4)、(5)

別　冊

No. 14　写　　真

50　13歳の男子。不登校を主訴として両親に伴われて来院した。中学校入学後まもなく、朝起きたときに腹痛、嘔気および頭痛を訴えて学校を休み始めた。しかし、昼すぎには症状が消失して元気になる。近医を受診しても、特に病気はないと言われた。2か月以上も学校を休んでいて、気持ちがいらだち、勉強が遅れると焦りを高めている。

この患者の治療として適切なのはどれか。

(1)　催眠療法

(2)　箱庭療法

(3)　遊戯療法

(4)　家族療法

(5)　認知療法

a　(1)、(2)、(3)　　b　(1)、(2)、(5)　　c　(1)、(4)、(5)

d　(2)、(3)、(4)　　e　(3)、(4)、(5)

◎　下記の欄に受験番号および氏名を記入すること。

受　験　番　号	氏　名（楷　書　で　書　く　こ　と）